

可児市文化創造センター政策評価のための基礎調査
報 告 書

目次

■調査の概要

1.調査の目的	1P
2.調査の経過	1P
3.調査設計	3P
4.調査項目	4P

■総評

1.アーラに対する利用者の声について	5P
2.今後の利用者像について	10P
3.今後の方向性について	16P

■調査結果の概要と評価数値

1.市民アンケート	18P
2.鑑賞事業アンケート	20P
3.創造事業アンケート	22P
4.貸館ヒアリング	24P
5.アーティストヒアリング	25P

※調査結果報告書の見方

- ・集計結果はすべて、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が 100.0%にならないことがある。
- ・複数回答の設問の場合、集計結果の合計は 100.0%をこえている。
- ・グラフ及び表中の「サンプル数（人数）」は、集計対象者数を表している。

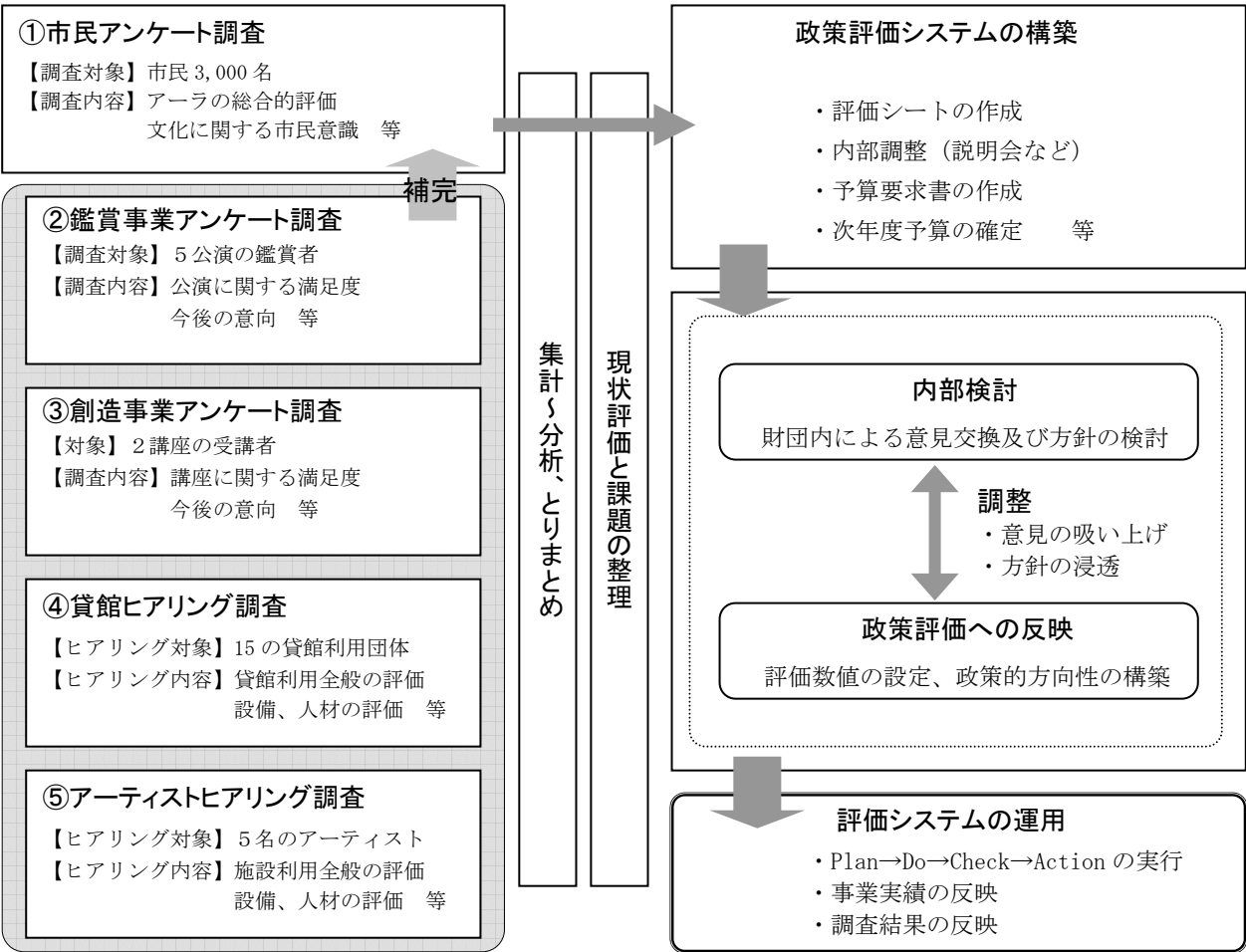
【調査の概要】

1. 調査の目的

可児市文化創造センター（アーラ）において、これまで行ってきた「文化・芸術の中核づくり」「人と情報の交流拠点づくり」「文化を活かしたまちづくり」など、総合的に進めてきた「文化で創るまち」への追求が、どの程度市民へ浸透しているのか、各種の事業に対する市民や利用者の意見・要望を伺い、①その現状を把握すること、また、これまでの事業内容を評価すること、さらに、②今後のより良い施設運営のための基礎資料とすること、③今後、実施される政策評価システムに反映すること、を目的として、下記の各調査を実施した。

2. 調査の経過

<評価システム実施のための基礎調査フロー>



<調査実施経過>

月	政策評価システム	①市民アンケート	②鑑賞事業アンケート	③創造事業アンケート	④貸館ヒアリング	⑤アーティストヒアリング
10月	● 政策評価システム案の検討 ↓	● 設問案の設計・検討 ↓	● 設問案の設計・検討 ↓			
11月	● 内部調整 ↓ ● 予算案の作成 ↓	● 調査票の作成等 ↓ ●	● 鑑賞事業アンケート ・公演A ・公演B ・公演C ・公演D ・公演E の実施 ↓ ●		● 設問案の設計・検討 ↓	● 設問案の設計・検討 ↓
12月		● 調査票の発送・回収 ↓	● アンケート集計・分析 ↓	● 設問案の設計・検討 ↓ ●	● ヒアリングの実施 ↓	● ヒアリングの実施 ↓
1月	● 評価シートによる予算査定 ↓	● アンケート集計・分析 ↓	● ↓	● 調査票の発送・回収 ↓ ●	● ヒアリング結果集計 ↓	● ↓
2月	● 予算書の作成 ↓	● ↓	● 報告書まとめ ↓	● アンケート集計・分析 ↓ ●	● ↓	● ヒアリング結果集計 ↓
3月	● 調査結果の活用 ↓	● 報告書まとめ ↓ ● 報告書の完成 ↓		● 報告書まとめ ↓	● 報告書まとめ ↓	● 報告書まとめ ↓

3. 調査設計

調査種類	調査の概要等																																			
<p>① 市民 アンケート調査</p>	<p>手法：市民に向けたアンケート調査 対象：市民 3,000 人（12 歳～69 歳の男女を住民基本台帳より無作為抽出） 方法：郵送方式 実施時期：平成 17 年 11 月 16 日～平成 18 年 1 月 9 日 回収数：933 票 回収率：31.1%</p>																																			
<p>② 鑑賞事業アンケート調査</p>	<p>手法：公演鑑賞後のアンケート調査 対象：文化創造センター内での公演鑑賞者（特定 5 公演） 方法：職員による配布、回収箱を設置して回収 実施時期と回収数等：</p> <table border="1" data-bbox="419 797 1372 1061"> <thead> <tr> <th></th> <th>公演 A (演劇)</th> <th>公演 B (ワールドミュージック)</th> <th>公演 C (歌謡曲)</th> <th>公演 D (クラシック)</th> <th>公演 E (演劇)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施日時</td> <td>H17. 11. 5</td> <td>H17. 11. 7</td> <td>H17. 11. 11</td> <td>H17. 11. 17</td> <td>H17. 11. 26</td> </tr> <tr> <td>対象人数</td> <td>391 人</td> <td>106 人</td> <td>535 人</td> <td>120 人</td> <td>297 人</td> </tr> <tr> <td>回収数</td> <td>77 票</td> <td>23 票</td> <td>57 票</td> <td>17 票</td> <td>89 票</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>19.7%</td> <td>21.7%</td> <td>10.7%</td> <td>14.2%</td> <td>30.0%</td> </tr> </tbody> </table>							公演 A (演劇)	公演 B (ワールドミュージック)	公演 C (歌謡曲)	公演 D (クラシック)	公演 E (演劇)	実施日時	H17. 11. 5	H17. 11. 7	H17. 11. 11	H17. 11. 17	H17. 11. 26	対象人数	391 人	106 人	535 人	120 人	297 人	回収数	77 票	23 票	57 票	17 票	89 票	回収率	19.7%	21.7%	10.7%	14.2%	30.0%
	公演 A (演劇)	公演 B (ワールドミュージック)	公演 C (歌謡曲)	公演 D (クラシック)	公演 E (演劇)																															
実施日時	H17. 11. 5	H17. 11. 7	H17. 11. 11	H17. 11. 17	H17. 11. 26																															
対象人数	391 人	106 人	535 人	120 人	297 人																															
回収数	77 票	23 票	57 票	17 票	89 票																															
回収率	19.7%	21.7%	10.7%	14.2%	30.0%																															
<p>③ 創造事業アンケート調査</p>	<p>手法：参加者へのアンケート調査 対象：各講座の参加者（特定 2 事業） 方法：郵送方式 実施時期と回収数等：</p> <table border="1" data-bbox="419 1256 1153 1520"> <thead> <tr> <th></th> <th>講座 A (伝統芸能)</th> <th>講座 B (音楽)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施日時</td> <td>H17. 12. 26～H18. 1. 16</td> <td>H17. 12. 26～H18. 1. 16</td> </tr> <tr> <td>対象人数</td> <td>223 人</td> <td>20 人</td> </tr> <tr> <td>回収数</td> <td>64 票</td> <td>8 票</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>28.7%</td> <td>40.0%</td> </tr> </tbody> </table>							講座 A (伝統芸能)	講座 B (音楽)	実施日時	H17. 12. 26～H18. 1. 16	H17. 12. 26～H18. 1. 16	対象人数	223 人	20 人	回収数	64 票	8 票	回収率	28.7%	40.0%															
	講座 A (伝統芸能)	講座 B (音楽)																																		
実施日時	H17. 12. 26～H18. 1. 16	H17. 12. 26～H18. 1. 16																																		
対象人数	223 人	20 人																																		
回収数	64 票	8 票																																		
回収率	28.7%	40.0%																																		
<p>④ 貸館 ヒアリング調査</p>	<p>手法：ヒアリング（聴きとり面談）調査 対象：貸館を利用している活動団体（15 団体） 方法：調査票への記入形式 後日、調査票にもとづく聞き取り面談調査 実施時期：平成 17 年 12 月 14 日～平成 17 年 12 月 26 日</p>																																			
<p>⑤ アーティスト ヒアリング調査</p>	<p>手法：ヒアリング（聴きとり面談）調査 対象：施設を利用しているアーティスト（5 名） 方法：調査票への記入形式 後日、調査票にもとづく聞き取り面談調査 実施時期：平成 17 年 12 月 11 日～平成 18 年 1 月 13 日</p>																																			

4. 調査項目

調査種類	調査項目
① 市民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答者の属性 ・ 近年の文化活動実績と今後の活動意向（鑑賞型の活動と参加型の活動） ・ 文化活動を行う場所 ・ 文化活動の年間回数 ・ 文化芸術の重要性について ・ 市の文化振興施策について ・ 施設の認知度 ・ 施設への来館について ・ 来館頻度 ・ 来館している理由（してない理由） ・ 利用しているもの（利用している理由） ・ 市民参加型の取り組みについて ・ 各種の文化事業についての関心度 ・ 情報収集媒体 ・ 現在の活動についての評価 ・ 今後期待する活動について ・ 自由意見
② 鑑賞事業アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公演を知った情報 ・ 過去に鑑賞した回数 ・ 各種項目の満足度 ・ 文化創造センターへの総合的意見 ・ 来年の公演について ・ 今後開催して欲しい公演のジャンル ・ 今後実施してほしい活動 ・ 公演を開催してほしい日時 ・ 本公演の感想、当センターへのご要望など ・ 回答者の属性
③ 創造事業アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答者の属性 ・ 施設全般についての利用のしやすさ（選択した具体的理由も） ・ 情報の入手方法 ・ 講座に参加している理由 ・ 講座に参加して良かったこと、悪かったこと ・ 今後の参加への継続意向（継続する理由・しない理由） ・ 事業の必要性について ・ 講座への満足度・改善してほしいこと ・ 講座を通して今後、実現させてみたいこと ・ 自由意見
④ 貸館ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貸館利用の状況 ・ 文化創造センターのイメージ ・ 施設設備の利用のしやすさ ・ 利用料金・利用時間について ・ 申込み調整期間について ・ 職員・受付などの対応について ・ 舞台技術・技術者への要望など ・ 専属の担当員（制作スタッフ）・制度について ・ 事前打合せについて ・ 文化団体を育成する支援について ・ 改善・発展するためのアイデア・提言など
⑤ アーティストヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化創造センターのイメージ ・ 他施設との比較 ・ 施設設備の利用のしやすさ ・ 舞台技術・技術者への要望など ・ 専属の担当員（制作スタッフ）・制度について ・ ワークショップなど市民育成事業の担当者について ・ 改善・発展するためのアイデア・提言など ・ 今後の方向性について

【総 評】

1. アーラに対する利用者の声について

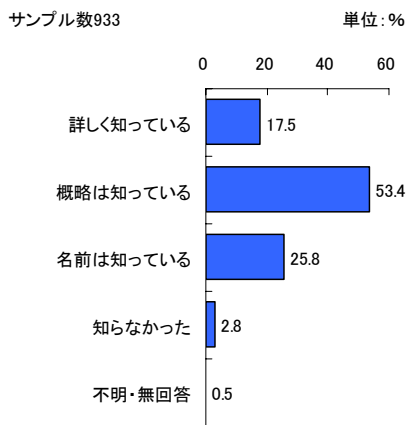
■アーラの認知度、来館率、また、その全体的な評価について

市民アンケートで、アーラの存在を知っているかをたずねた設問では、「詳しく知っている」17.5%、「概略は知っている」53.4%、「名前は知っている」25.8%となっており、何かしら知っているという認知度の割合は、全体の96.7%であることがうかがえる。

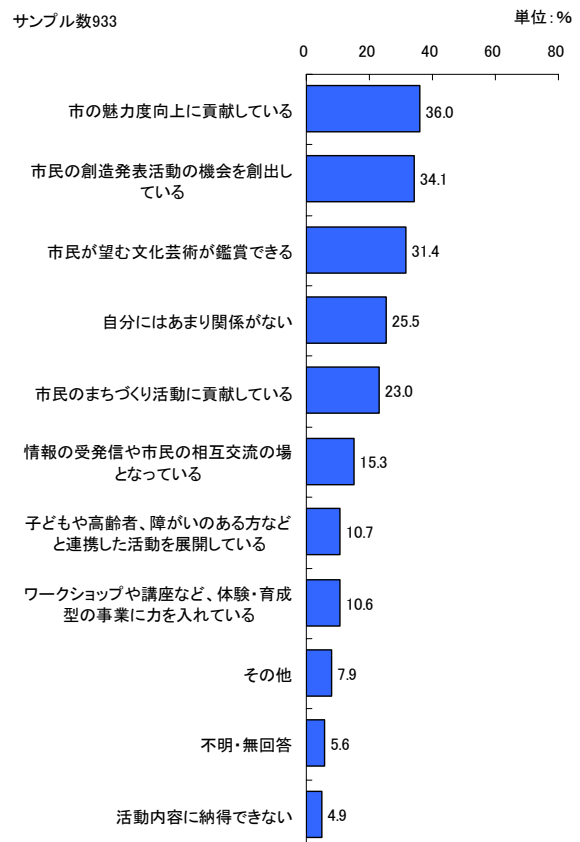
「来館したことがある」という割合は77.1%と、10人に7人以上の市民がアーラを訪れたことがあるという結果となっている。

また、現在のアーラの活動に対して市民が感じているものとしては、「市の魅力度向上に貢献している」への割合が36.0%で、回答のなかで最も順位が高くなっている。

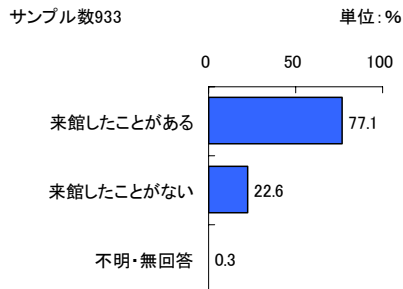
【市民アンケート】
◆アーラを知っているか



【市民アンケート】
◆アーラの現在の活動について（順位）



【市民アンケート】
◆アーラに来館したことがあるか



また、他の調査結果を見ても、アーラに対する総合的な評価については良い意見がうかがえた。

鑑賞事業アンケートでは、アーラを利用してどのように感じているかをたずねたところ、「たいへん満足している」26.6%、「まあ満足している」57.8%となっており、「たいへん満足している」「まあ満足している」を合計した8割以上の利用者が満足感を感じていることがわかる。

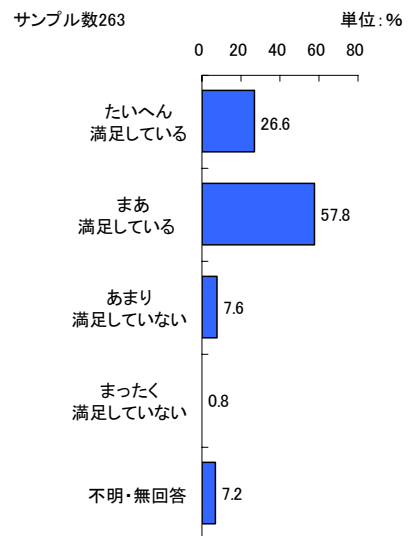
創造事業アンケートでは、利用して感じている意見として、「とても利用しやすい」13.9%、「利用しやすい」68.1%となっており、施設の利用のしやすさについて評価の高いことがうかがえる。

貸館ヒアリング、アーティストヒアリングをみても、多くの利用者がアーラに対して「良い」イメージを抱いており、その具体的な理由として、「空間の広さ」や「雰囲気」などの意見があがっている。

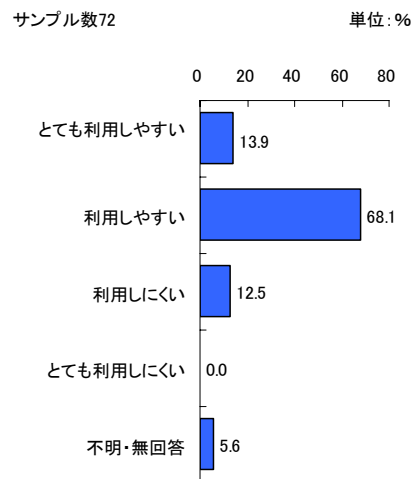
こうした結果をみると、多くの市民が文化活動を行う拠点施設としてアーラを利用し、その存在は、市の魅力や誇りにつながる象徴的な文化施設として市民に認知されていることがうかがえる。

あわせて、鑑賞機能と創造・体験機能をあわせ持った両立型の施設として、そのどちらの事業についても、利用のしやすいものとなっていることがわかる。

【鑑賞事業アンケート】(5公演計) ◆アーラを利用して感じる意見

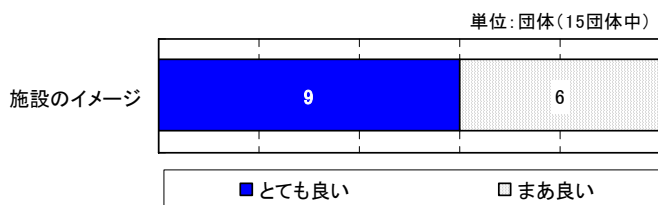


【創造事業アンケート】(2講座計) ◆アーラを利用して感じる意見



【貸館ヒアリング】

◆施設のイメージについて

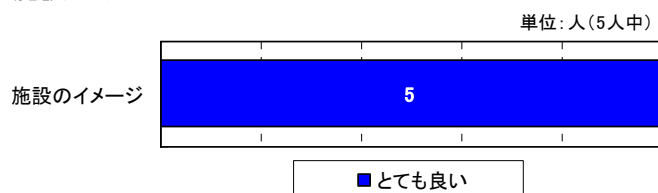


<主な意見>

- ・空間が広い、ゆったりしている
- ・デザインが良い、外観が良い
- ・雰囲気が良い (明るい、清潔感がある)
- ・他施設と比べても良い
- ・文化の香りが高い、質の高さを実感
- ・誰でも利用しやすい
- ・いつ来ても文化行事が開かれている
- ・市の象徴になっている

【アーティストヒアリング】

◆施設のイメージについて



<主な意見>

- ・雰囲気が良い (木の造り、あたたかさ、開放感、緑多い)
- ・劇場の音響が良い
- ・誰でも来やすいところ

■満足度からみる各事業の評価について

市民アンケートで、アーラを利用している人に、その利用した内容についてたずねたところ、(鑑賞事業)

- ・「公演・映画などの鑑賞」53.0%

(創造事業)

- ・「レッスンや講座などのワークショップ」12.0%

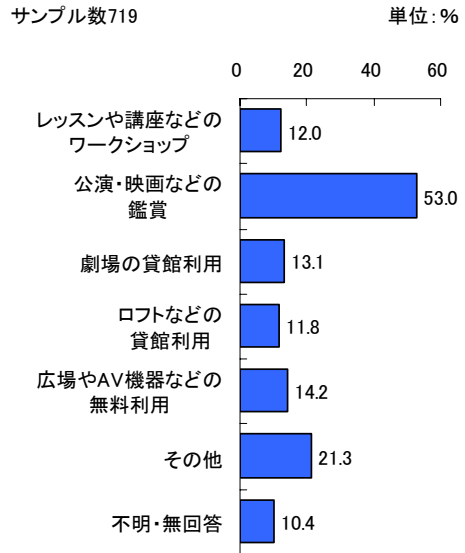
(貸館事業)

- ・「劇場の貸館利用」13.1%、
- ・「ロフトなどの貸館利用」11.8%

という結果となっている。

アーラの主要事業である上記3事業については、各調査において、利用者の満足度をたずねており、その評価については以下のとおりとなっている。

【市民アンケート】 ◆アーラで利用したもの



■■■■■ 鑑賞事業 ■■■■■

鑑賞事業についての満足度をみると、おおむね満足度の高い結果となっている。

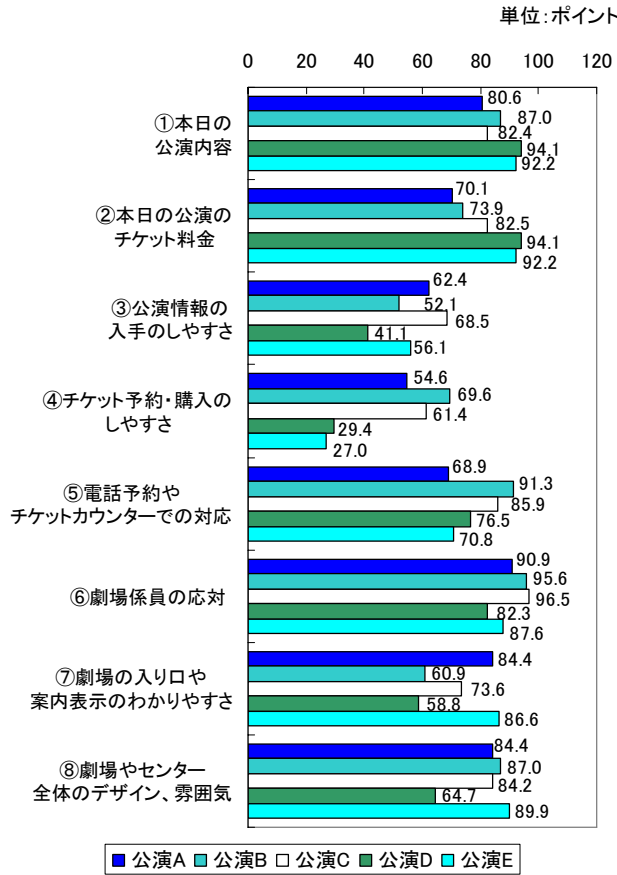
特に、全ての公演で満足度のポイントが80.0ポイント以上あったものは「①本日の公演内容」「⑥劇場係員の対応」であった。

一方、全ての公演で満足度のポイントが70.0ポイント未満であったのは「③公演情報の入手のしやすさ」「④チケット予約・購入のしやすさ」となった。

公演別にみると、センターに鑑賞に来たのが「はじめて」という割合が、他の公演と比べて高かった公演B・公演Dにおいて、「③公演情報の入手のしやすさ」「⑦劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ」への満足度が、他の公演と比べて低くなっているという傾向があらわれている。

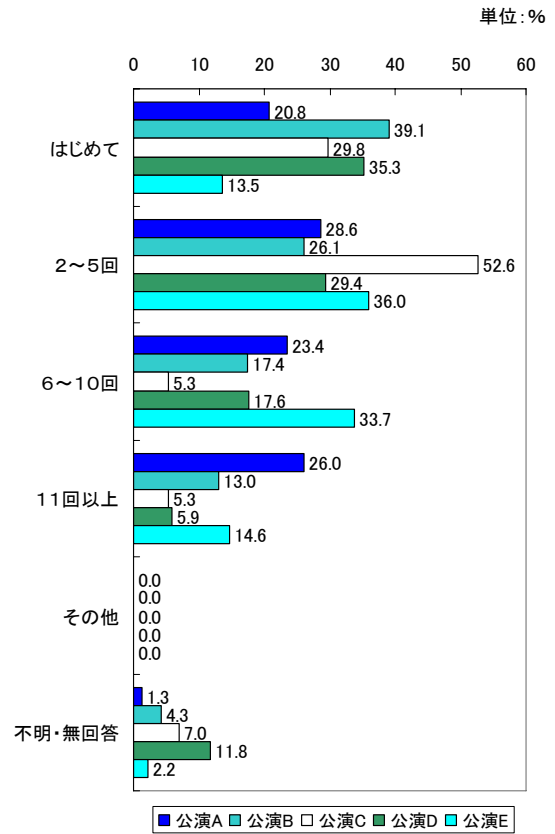
「公演情報の入手のしやすさ」「チケット予約・購入のしやすさ」については、現状の情報提供の方法やチケット販売方法と合わせて、より幅広く対応できる仕組みや対応が求められているものと考えられる。「案内表示のわかりやすさ」については、初訪問の人にとってもわかりやすい案内板への工夫や配慮などが求められている。

【鑑賞事業アンケート】
◆公演・センターの「満足度」



※各設問の「たいへん満足」「まあ満足」を「+（プラス）の満足度」、「少し不満足」「まったく不満足」を「-（マイナス）の満足度」と設定し、それぞれを足して求めたものをポイント化としている。

【鑑賞事業アンケート】
◆来場回数



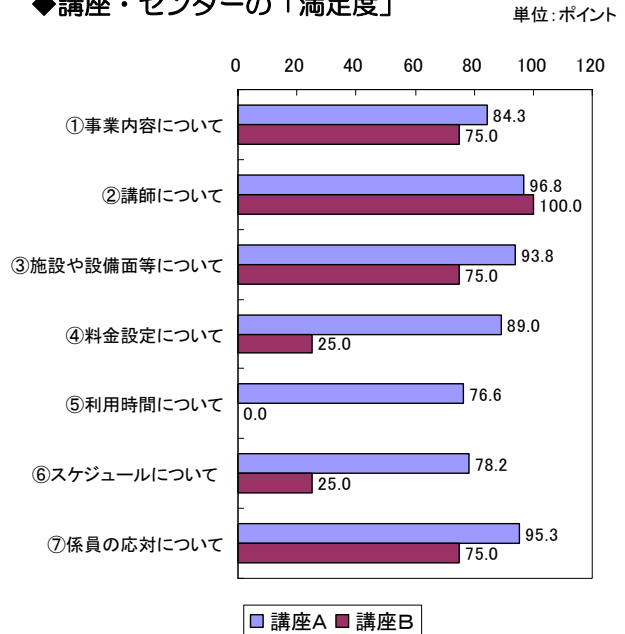
■■■■■ 創造事業 ■■■■■

創造事業についての満足度が高いものは、講座A・Bともに「①事業内容について」「②講師について」「③施設や設備面等について」「⑦係員の対応について」であった。

講座別にみると、講座Bにおいて、「④料金設定」「⑤利用時間」「⑥スケジュール」の項目で、満足度が低くなる傾向があらわれている。

講座の開催時間の設定等については、利用者の全員が希望する設定は現実的に困難ではあるが、今後、少しでもより多くの利用者の参加が図れるよう、調整を行っていく必要があるものと考えられる。

【創造事業アンケート】
◆講座・センターの「満足度」



※各設問の「たいへん満足」「まあ満足」を「+（プラス）の満足度」、「少し不満足」「まったく不満足」を「-（マイナス）の満足度」と設定し、それぞれを足して求めたものをポイント化としている。

■■■■■ 貸館事業 ■■■■■

貸館事業については、おおむね利用しやすい（良い）という意見が多い結果となっている。

設備、備品面では、トイレ、楽屋、備品（音響反射板、マイク、ピアノなど）、搬入口などの項目についてうかがったところ、利用するほとんどの団体、アーティストともに利用しやすいと回答している。

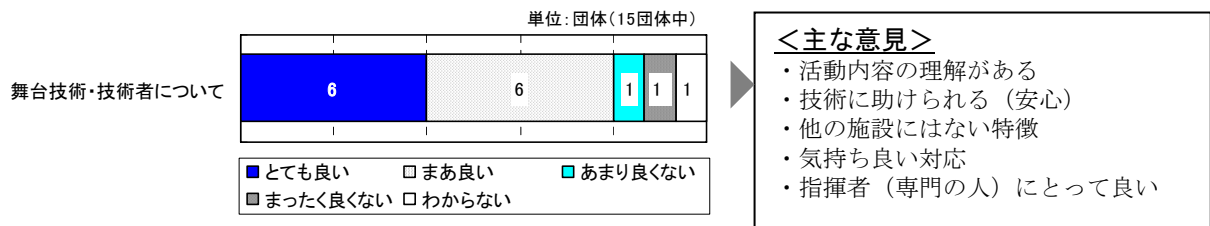
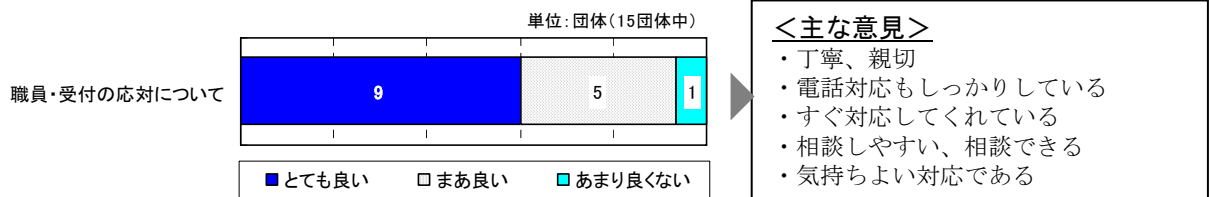
職員・受付については、利用するほとんどの団体で良い意見が多く、具体的には、丁寧、親切、相談しやすい、気持ちよい対応であるといった理由となっている。

舞台技術（者）についても、利用団体、アーティストともに、良いという意見が多く、専門的な技術が利用者にとって支えになっている面やさまざまな演目に対応できている面がうかがえた。

今後は、ヒアリングのなかで利用者の指摘のあった「駐車場スペースが足りない」ことや「利用者が専門技術スタッフとコミュニケーションをとりたい」ことなどの課題について、より良い工夫・配慮が求められる。

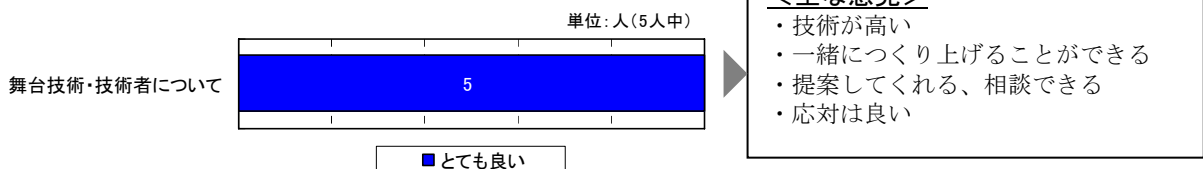
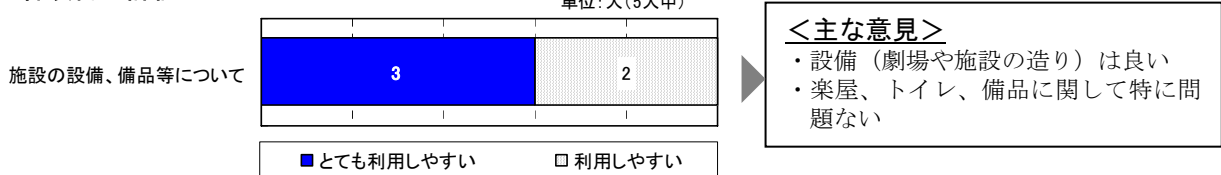
【貸館ヒアリング】

◆各項目の評価について



【アーティストヒアリング】

◆各項目の評価について



2. 今後の利用者像について

■来館したことのない人を取り込む

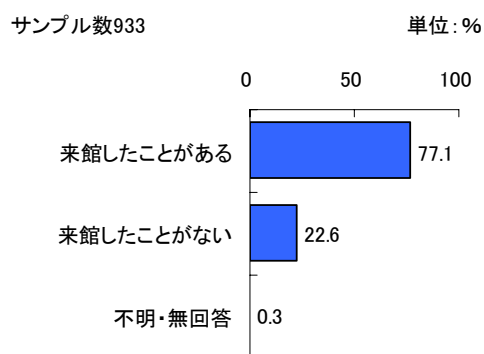
市民アンケート調査で、アーラに来館したことがあるかどうかたずねた設問では、「来館したことがある」が全体の77.1%という結果であった。8割に近い来館者があることは、決して少なくない数値であるといえるが、今後、さらに利用者の幅を広げていくためには、「来館したことがない」と回答している22.6%の市民に対する来館率をどのようにあげていくかを考えていく必要がある。

市民アンケートで、「来館したことがない」と回答している22.6%の市民に来館していない理由をたずねた設問では、「興味ある催しがない」「何をやっているかわからない」「時間的な余裕がない」への回答が3割以上となっている。

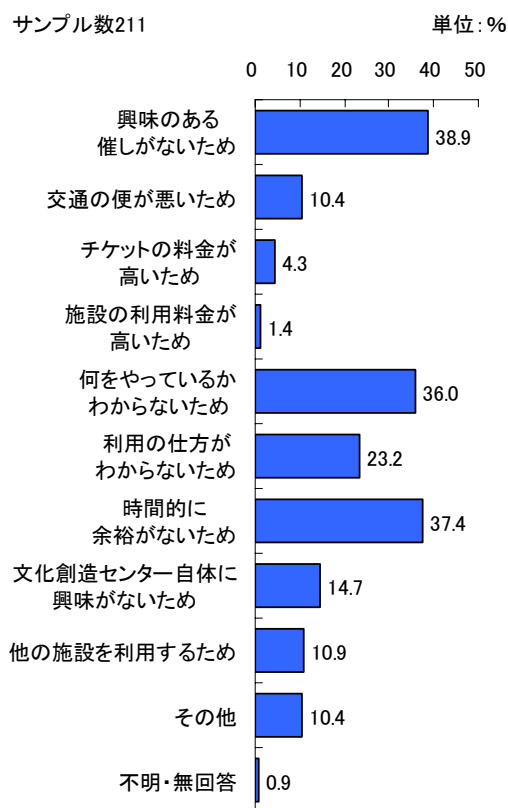
時間に余裕がない人に対しては、流動的な開館時間の検討なども視野に入れて取り組んでいく必要があるものと考えられるが、開館日時等を全ての人のライフスタイルに合わせた設定は現実的に困難であるものと考えられる。

そのため、今後、裾野を広くし、さらに利用者拡大を図っていくためには、「興味ある催しがない」「何をやっているかわからない」といった未利用者への声に対して取り組んでいくことが課題となってくる。

【市民アンケート】 ◆アーラに来館したことがあるか



【市民アンケート】 ◆来館していない理由



■■■■ 「興味ある催しが無い」 ■■■■

興味ある催しが無いという声に対しては、市民や利用者の望む催しを継続して企画していく必要があるものと考えられる。

市民アンケートをみると、今後実施してほしい活動として、「有名な俳優や歌手などが出演する公演を企画してほしい」が最も多く、58.6%うかがえる。

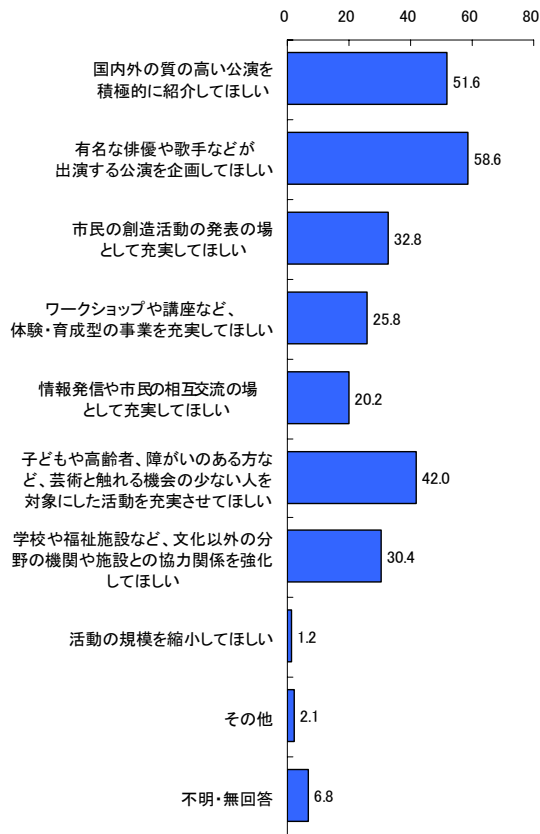
鑑賞事業アンケートでは、今後実施してほしい活動として、「国内外の質の高い公演の積極的な紹介」が71.9%と最も多くなっている。

今後、魅力的な公演を催していくうえでは、集客性という点で、どちらも重要な要素であると考えられるため、芸術性の高さとのバランスをとりながら、望まれる著名な出演者について新たな需要を探りつつ、催しの内容を検討していくことが求められる。

【市民アンケート】
◆今後実施してほしい活動

サンプル数933

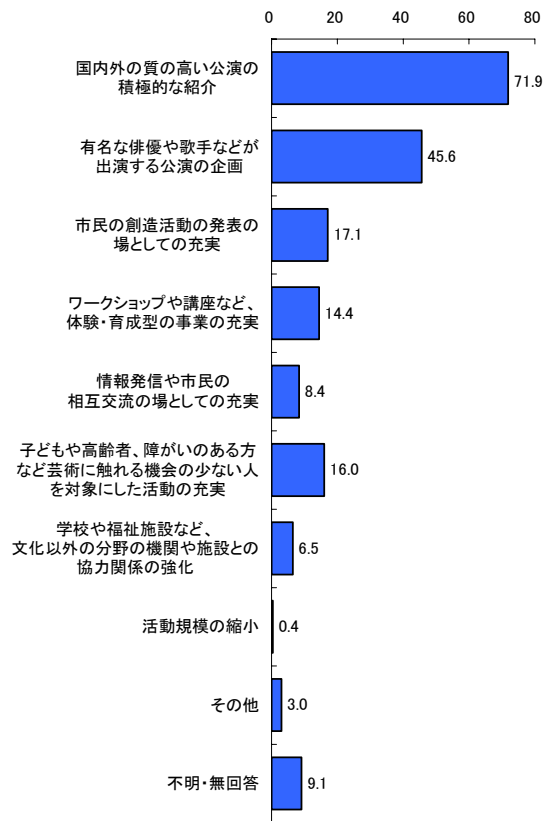
単位：%



【鑑賞事業アンケート】
◆今後実施してほしい活動

サンプル数263

単位：%



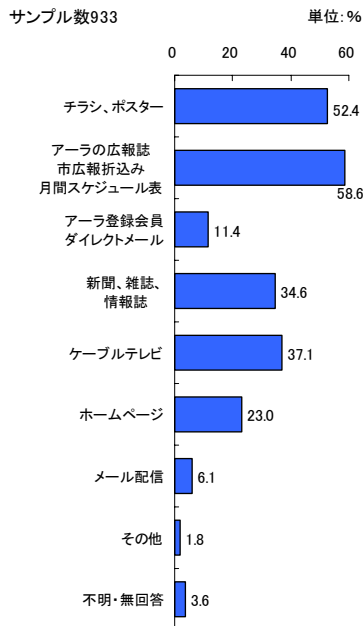
■■■■ 「何をやっているのかわからない」 ■■■■

アーラからの情報発信（媒体）について、市民アンケートでたずねた設問では、市民が望む情報媒体として、「チラシ・ポスター」「アーラの広報誌、市広報折込み月間スケジュール」「ケーブルテレビ」「新聞、雑誌、情報誌」などの回答が多い結果であった。

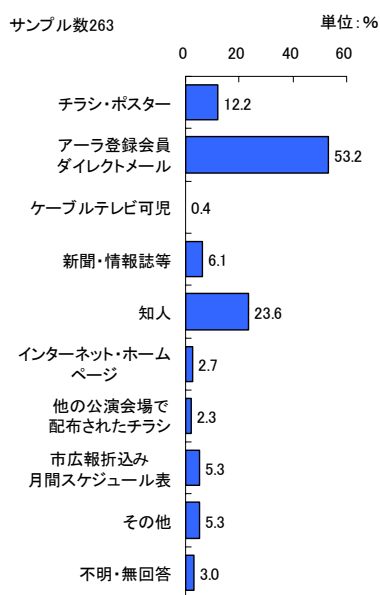
鑑賞事業アンケートや創造事業アンケートをみると、実際に情報として有効に活用されているものは、ダイレクトメールや知人といった媒体が多いことがうかがえた。

今後、情報の伝達が行き届いていない面に対しては、現有の情報環境や発信源を十分に活かして、広報誌やケーブルテレビなど、幅広い人を対象としたメディアでの広報・宣伝のあり方を検討し、充実させていくことが考えられる。また、口コミや紹介でも情報が広がっていくよう、地域の人や団体を媒介としたローカルネットワークへの働きかけによって、草の根的に情報を発信していくことも重要になるものと考えられる。

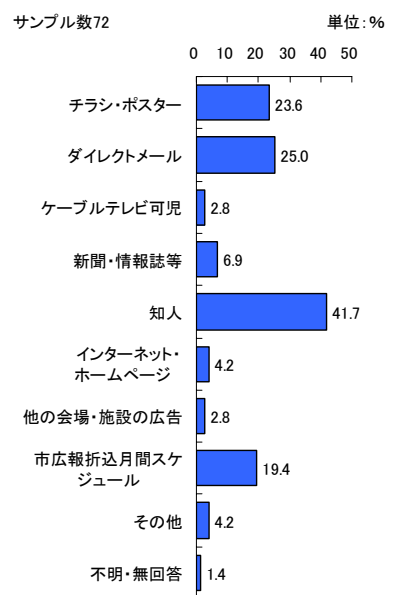
【市民アンケート】
◆希望する情報媒体について



【鑑賞事業アンケート】
◆公演を知った情報媒体について



【創造事業アンケート】
◆講座を知った情報媒体について

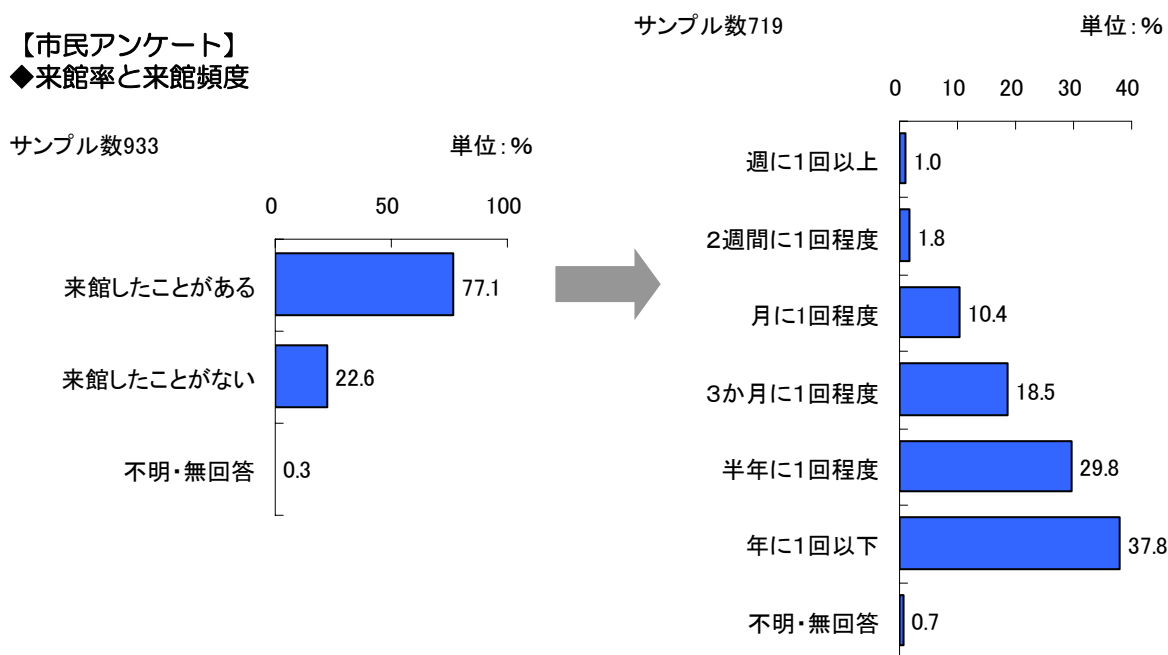


■複数回来館者（リピート）について

市民アンケート調査で、アークにどのくらいの頻度で来館しているかをたずねた設問では、「年に1回以下」という回答が最も多く37.8%となっている。

今後、施設の利用促進を図るうえでは、新規来館者数を増やすことと合わせて、いわゆるリピート来館者数を増やしていくことも重要となる。

【市民アンケート】 ◆来館率と来館頻度

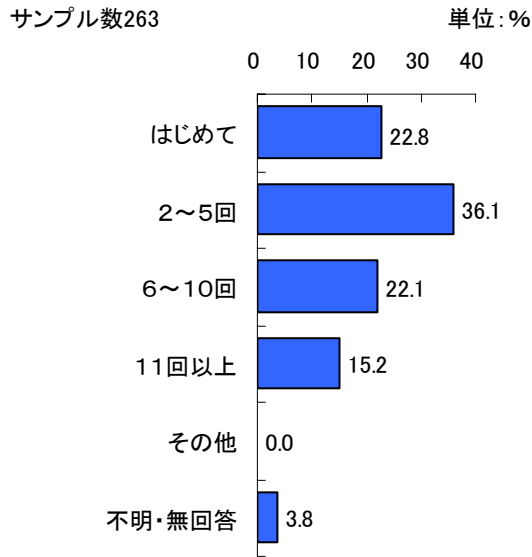


鑑賞事業アンケートの結果をみると、比較的反復客層や今後の来館意向が多いことがうかがえる。また、創造事業アンケートからも各講座への継続利用意向や創造事業の必要性を強く感じている利用者が多いことがわかる。

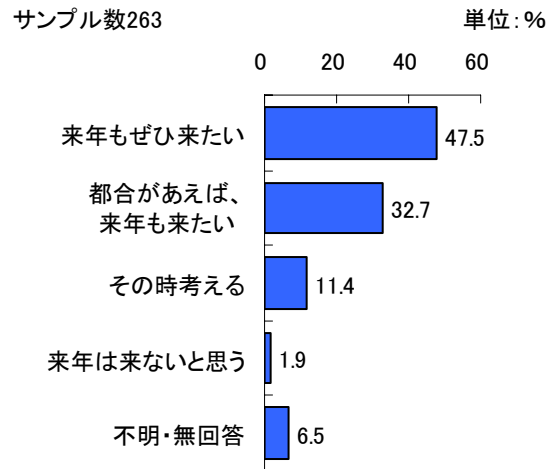
今後はこうした各鑑賞事業や創造事業の充実にもさらに取り組むことで、来館頻度を高めることが可能になると考えられる。

あわせて、さらなる利用者拡大につなげるためには、鑑賞事業や創造事業の利用で来館したおりに、館内の展示物やほか事業の情報などを通して、さまざまなアークでの取り組みや活動の理解・体験に発展できるような環境づくりが重要となる。こうした各事業の充実が将来的に他の事業の充実にもつながり、複数回来場してもらえるようなきっかけを生むシステムについても、今後検討していく必要がある。

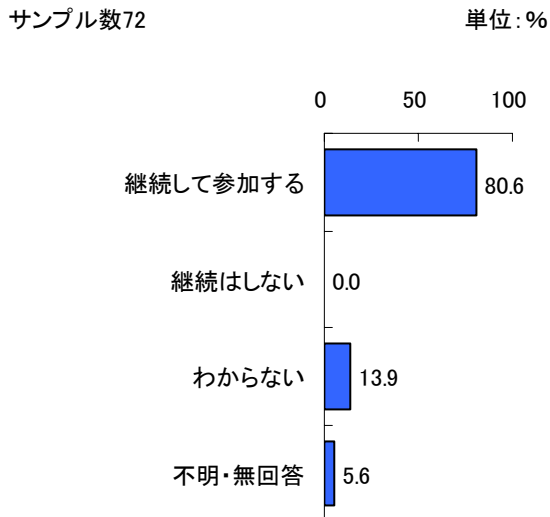
【鑑賞アンケート】
◆来場回数（5公演合計）



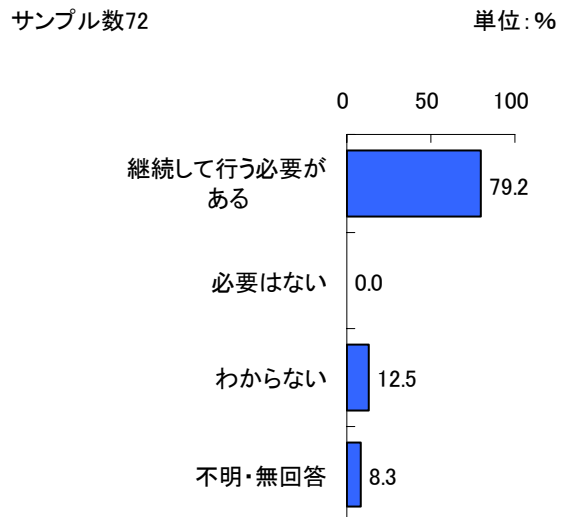
【鑑賞アンケート】
◆次公演に対する意向（5公演合計）



【創造アンケート】
◆講座への継続意志（2講座合計）



【創造アンケート】
◆今後の事業の必要性（2講座合計）

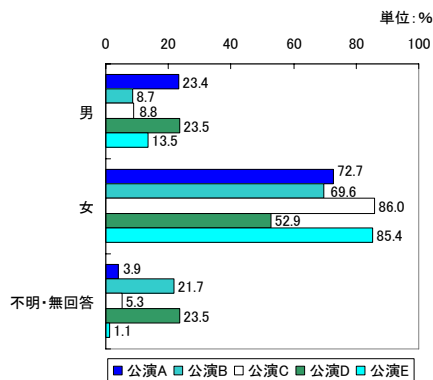


■利用の多い顧客層と利用の少ない顧客層にむけた取り組みが重要

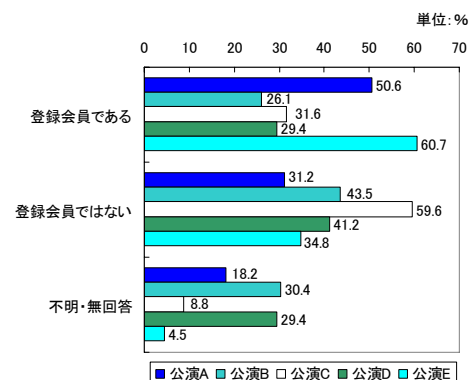
鑑賞事業アンケートをみると、各公演を通じて、女性、50代、登録会員の鑑賞者が多い結果となっている。今後の利用者を増やすためには、まず、こうした利用の多い中心層にむけた公演の企画や内容を充実させ、継続的に利用してもらうことが重要であると考えられる。

また、市民アンケート調査では、アーラを利用した5割の人が「公演や映画などの鑑賞」を利用していることがわかるが、「公演や映画などの鑑賞」の利用は、20歳代の割合がほかの年齢層に比べ低くなっている。同様に、鑑賞事業アンケートをみても、若い年齢の利用者が全体的に少ないことがうかがえるため、今後は、若い年齢層へ向けた鑑賞型の事業の企画や、催しの内容の工夫を行いながら、利用者拡大を促していくことが重要だと考えられる。

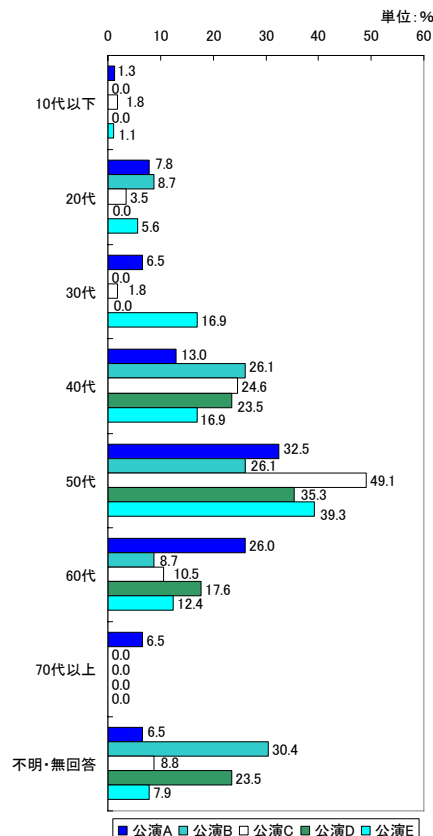
【鑑賞事業アンケート】
◆鑑賞者の性別（5公演別）



【鑑賞事業アンケート】
◆鑑賞者の会員状況（5公演別）



【鑑賞事業アンケート】
◆鑑賞者の年齢（5公演別）



【市民アンケート】
◆公演・映画鑑賞の年齢別クロス表（抜粋）

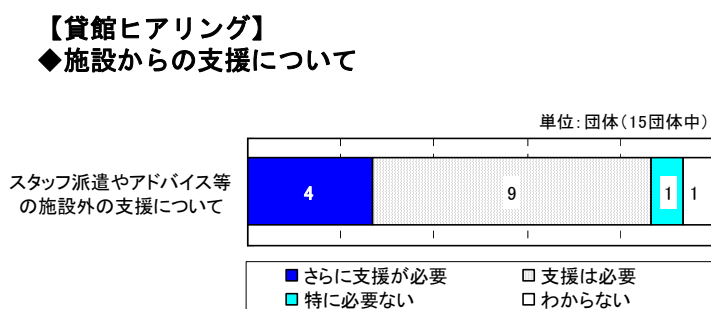
		(上段:人、下段:%)	
		合計	公演・映画などの鑑賞
年齢	合計	719	381
		100.0	53.0
	10歳代	72	36
		100.0	50.0
	20歳代	90	27
		100.0	30.0
	30歳代	116	54
		100.0	46.6
	40歳代	121	68
	100.0	56.2	
50歳代	159	105	
	100.0	66.0	
60歳代	157	89	
	100.0	56.7	
不明・無回答	4	2	
	100.0	50.0	

3. 今後の方向性について

■文化活動団体の育成について

今後、さらにアーラが人や情報の交流拠点として機能していくためには、情報媒体の設備・発信の充実とあわせて、人と人、人と情報をつなぐ役割も重要となる。

アーラでは専門技術スタッフを配置し、既存施設とは異なった高いレベルの舞台活動を行っており、貸館ヒアリング調査では、利用団体と施設スタッフとのコミュニケーションによって、お互いに情報交換ができていているという意見が多くうかがえた。そのなかで、今後、施設外の場でも交流（人的支援含め）を望む声が多かったことから、人と情報の交流拠点の役割として、地域に密着した利用者への活動を図るなど、利用者とアーラの新しい関係性の構築に努めていくことも重要となってくる。



<主な意見>

- ・普段から協力できれば本番上手くいく
- ・交流としては良い
- ・お互いに文化を育成できる
- ・現場に来て良い
- ・ありがたい、ぜひお願いしたい
- ・親近感、関係性が深まる
- ・指揮者など専門の人がいる時が良い
- ・活動になれていない団体は喜ぶ
- ・上手くいけば画期的、先進的
- ・草の根が広がるなら良い

■市民が求める今後のアーラへのニーズ

アーラでは、施設内に専門技術スタッフを配置していることで、利用者が専門知識を得たり、技術を習得できる機能があると、貸館ヒアリングの意見で多くうかがえた。

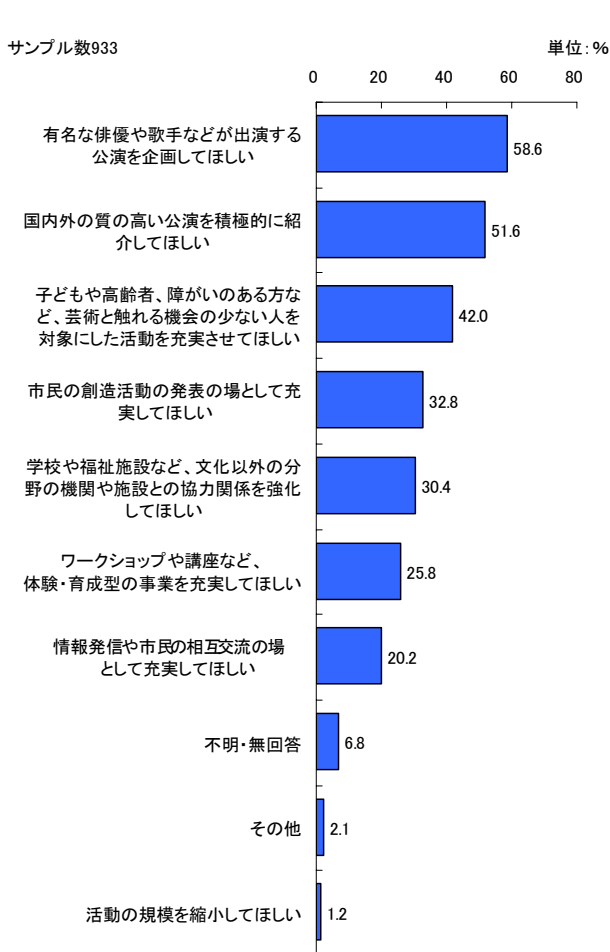
こうした取り組みを通して、児童の発表会や学生の文化活動など、質の高い文化芸術活動を誘発・増進し、施設自体が教育的・学習的な役割も果たしていることがわかる。

また、アーラでは様々な福祉との連携事業を進めているが、市民アンケートでは、今後実施してほしい活動として、「子どもや高齢者、障がいのある方などと連携した活動」が 42.0%となっており、依然、福祉的なニーズを市民が求めていることがうかがえる。

市民アンケートでは、市民参加型の取り組みについてたずねたところ、「運営に市民が参加するのは良いことなのでどんどん進めるべき」45.8%、「一定の市民だけでなく、もっと一般に参加が広がるような仕組みが大切」37.5%という結果となっており、市民参加について市民も積極的に進めたいという意向が多いことがわかる。

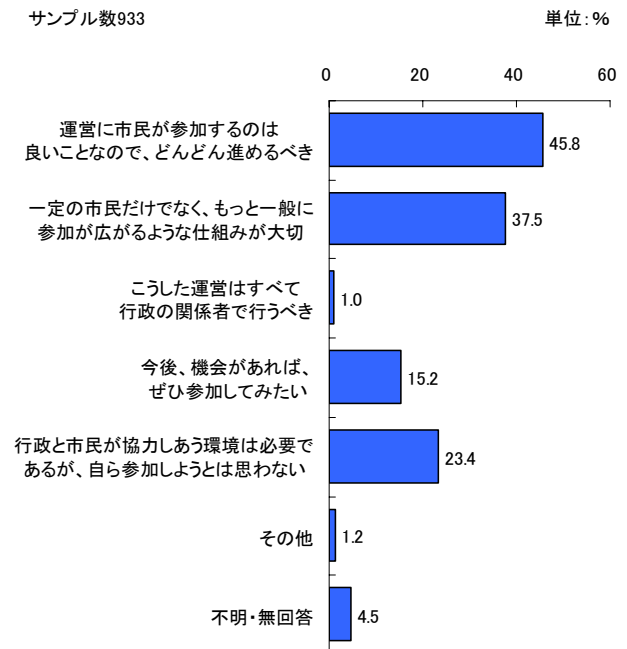
【市民アンケート】

◆今後、実施してほしい活動（割合の順位）



【市民アンケート】

◆市民参加型の取り組みについて



今後のアーラのあり方として、一人でも多くの市民が文化に触れ、豊かな感性をもった人間として育成されるためにも、アーラでの活動や事業が、教育や福祉、市民参加などのまちづくりの分野においても役割を担っていくことが求められるものと考えられる。

教育面では、学校機関との連携や若者を対象とした事業の充実を図るなど、将来に向けた文化振興の基礎づくりにも、より一層力を入れていくことが重要になるものと考えられる。

また、福祉的ニーズへの配慮としては、子どもや高齢者、障害のある方などを対象とした鑑賞事業や創造事業の企画運営を行うなど、アーラで可能な福祉的貢献を検討していく必要があるものと考えられる。

市民参加活動についても、市民の参加意欲をふまえ、長期的に、市民とともに歩む施設をめざすために、市民が自ら企画運営し、文化活動を活性化させていくような仕組みづくりも、今後、重要となってくる。

こうした文化を軸とした活動において各分野へ寄与することで、市の魅力をさらに高めることが可能になれば、よりアーラの存在価値が高まってくるものと考えられる。

【調査結果の概要と評価数値】

1. 市民アンケート

●分析・評価

- ・アーラの認知度は全体の96.7%で前回調査時（51.3%）よりも多くなっている。
- ・来館者数は全体の77.1%で、利用者は2年前（44.5%）よりも増加している。
- ・アーラ建設後、市内における文化活動率が伸びている。
- ・アーラは市の魅力を向上させる象徴的な施設として評価されている。
- ・各種の取り組みも文化振興への貢献として、市民の評価を得ている。
- ・今後、市民がアーラに求める活動として「有名な俳優や歌手などが出演する公演」についての意見が約6割、「国内外の質の高い公演」も約5割。また、福祉分野での取り組みを求める意見も多い。
- ・日常において文化は「大切である」と回答する人が全体の8割以上みられ、内閣府の文化に関する世論調査よりも若干多い。
- ・市の文化振興施策について「力を入れている」と感じている人は約4割で、「力を入れていない」と感じている人は約2割。
- ・市民参加型の取り組みは「どんどん進めるべき」が4割以上。

●調査結果からみた施設の問題点・課題について

- ・今後、利用者の増加を図るには、来館者の来館頻度を高めることと、未利用者に来館を促すことが必要である。
- ・公演事業については、認知の高い著名人の出演する公演を企画するなど、市民に受け入れられやすい内容を検討していく必要がある。
- ・今後、求められている福祉の視点での活動（子どもや高齢者、障がいのある方などを対象とした活動）についても、今後の取り組みを検討する必要がある。
- ・文化活動については、参加型（参加する・行う型）の活動への取り組みや意欲を示した人の割合が少ない。

※世論調査＝平成15年度実施『文化に関する世論調査』、H9調査＝平成9年度実施『文化センターに関する可児市市民意識調査』
H15調査＝平成15年度実施『可児市市民意識調査』

市民アンケート回答結果（概要）

	評価項目	評価の概要 (回答項目)	割合 (指数)	備考
市民 アン ケート	認知度	詳しく知っている (17.5%) 概略は知っている (53.4%) 名前は知っている (25.8%)	96.7%	H9調査 51.3%
		知らなかった (2.8%)	2.8%	H9調査 46.0%

市民アンケート	市民の来館率		来館したことがある	77.1%	H15 調査 44.5%	
			来館したことがない	22.6%	H15 調査 50.2%	
	来館頻度（ひと月の来館率）		月に1回以上来館している割合	13.2%	—	
	市民の文化活動状況		市内で活動する割合	36.0%	H9 調査 16.2%	
			市外で活動する割合	52.9%	H9 調査 76.0%	
	市の魅力度向上の貢献度 （アールの現在の活動に対する 評価項目上位の割合）		市の魅力度に向上している	36.0%	—	
			市民が望む文化芸術活動が鑑賞できる	31.4%	—	
			市民の創造発表活動の機会を創出している	34.1%	—	
	福祉的貢献度		子どもや高齢者、障がいのある方などと連携した活動を展開している	10.7%	—	
	今後の要望 （アールの今後の活動に対する期待 項目上位の割合）		有名な俳優や歌手などが出演する公演	58.6%	—	
			国内外の質の高い公演	51.6%	—	
			子どもや高齢者、障がいのある方などを対象とした活動	42.0%	—	
	文化振興 への貢献度	文化芸術活動は大切か （大切だと思う割合）	非常に大切だ	27.4%	世論調査 31.2%	
			ある程度大切だ	60.3%	世論調査 55.0%	
		文化振興施策について 力を入れているか （入れていると思う割合）	非常に力を入れている	5.8%	—	
			ある程度力を入れている	37.2%	—	
	文化活動指標 （年間のうち1回でも活動した割合）		音楽	54.3%	—	
			演劇・芸能	32.7%	—	
			舞踊	10.2%	—	
			美術	39.3%	—	
			メディア芸術	37.4%	—	
			生活文化・教養	31.5%	—	
	参加型の 文化活動	ここ数年で参加した趣味・文化活動	不明・無回答	48.4%	—	
		今後参加したい趣味・文化活動	不明・無回答	26.9%	—	
	市民参加度 （文化ボランティアやイベントへの参加意欲）		今後機会があれば、ぜひ参加してみたい	15.2%	—	
	市民とのパートナーシップについて		運営に市民が参加するのは良いことなのでどんどん進めるべき	45.8%	—	
			一定の市民だけでなく、もっと一般に参加が広がるような仕組みが大切	37.5%	—	
情報提供媒体について （情報を得たいと思う媒体の割合）		チラシ・ポスター	52.4%	—		
		アールの広報誌 （情報誌、月間スケジュール）	58.9%	—		
		ダイレクトメール	11.4%	—		
		ケーブルテレビ	37.1%	—		
		ホームページ	23.0%	—		

2. 鑑賞事業アンケート

●分析・評価

- ・ダイレクトメールやロコミ以外の広報・宣伝媒体の利用が少ない。
- ・複数回来場者が多い。
- ・全体的に満足度は高い。しかし、公演情報・チケット関連の項目では、公演によっては満足度がやや低い傾向がある。
- ・今後行ってほしい公演は、質の高さを求める意見と有名人の出演を求める意見の両方を選択する傾向がある。
- ・鑑賞者の傾向として、女性、50代、登録会員が多い。

●調査結果からみた施設の問題点・課題について

- ・今後はダイレクトメールや人からの情報伝達以外の有効な広報・宣伝媒体についても検討する必要がある。
- ・公演情報やチケット購入については、より幅広く対応できる仕組みや対応が求められている。
- ・「今後希望する催し」は、公演を選んだ好みが反映される傾向があり、今後も検証が必要である。
- ・今後は、利用の多い顧客層を中心に取組んでいくことと合わせて、利用の少ない顧客層（特に若い世代）にむけた取組みも重要になる。

鑑賞事業アンケート回答結果（概要）

評価項目		評価の概要 (回答項目)	割合 (指数)	
鑑賞事業アンケート	情報提供媒体について (情報を得た媒体の割合)		チラシ・ポスター	12.2%
			ダイレクトメール	53.2%
			ケーブルテレビ	0.4%
			知人	23.6%
			インターネット・ホームページ	2.7%
			月間スケジュール	5.3%
	リピート鑑賞回数	過去に複数回鑑賞したことがある割合 (6回以上来場した割合)	6回以上	37.3%
		来年も公演した場合に来場する割合 (次回公演の来場意欲)	来年もぜひ来たい	47.5%
	公演内容への満足度 (たいへん満足、まあ満足と回答した割合)		公演内容について	88.9%
			チケット料金について	89.0%
			公演情報の入手のしやすさ	76.0%
			チケットの予約・購入のしやすさ	69.2%
			電話予約やチケットカウンターでの対応	81.7%
			劇場係員の対応	93.9%
	今後、実施してほしい活動		国内外の質の高い公演	71.9%
			有名な俳優や歌手などが出演する公演	45.6%
	鑑賞者の属性	性別	男性	15.6%
			女性	78.3%
		年齢	10～30代	14.8%
			40～60代	72.6%
			70代以上	1.9%
住所		市内	46.0%	
		市外	47.1%	
会員状況		登録会員である	46.4%	
	登録会員ではない	40.3%		

※5公演の合計割合

3. 創造事業アンケート

●分析・評価

- ・参加理由として伝統芸能講座は、趣味や嗜好を優先する傾向があり、音楽講座は、自己成長・自己研鑽を優先する傾向がある。
- ・各講座とも、今後も参加を継続したいという意向が圧倒的多数を占める。
- ・両講座とも、文化振興のために継続するべきとの意見が多数。
- ・両講座とも満足度は高い。
- ・参加者の傾向として、伝統芸能講座は、女性、高齢者、市内在住、登録会員が多く、音楽講座は、男性、市外、非登録会員が多くなっている。

●調査結果からみた施設の問題点・課題について

- ・伝統芸能講座については、参加者の「楽しんで学びたい」ニーズに配慮した講座展開が必要。音楽講座は、「知識・技術・自己の研鑽」ニーズに配慮した講座展開が必要。
- ・各講座別に、参加している理由や講座に期待する内容が異なるため、それぞれに見合った対策が必要である。

創造事業アンケート回答結果（概要）

評価項目		評価の概要 (回答項目)	割合 (指数)	
創造事業アンケート	情報提供媒体について (情報を得た媒体の割合)	チラシ・ポスター	23.6%	
		ダイレクトメール	25.0%	
		ケーブルテレビ	2.8%	
		知人	41.7%	
		インターネット・ホームページ	4.2%	
		月間スケジュール	19.4%	
	今後の継続意欲	継続して参加する	80.6%	
	継続の必要性	継続して行う必要がある	79.2%	
	講座内容への満足度 (たいへん満足、まあ満足と回答した割合)	事業内容について	86.1%	
		講師について	98.6%	
		施設や設備面等について	94.4%	
		料金設定について	88.9%	
		利用時間について	81.9%	
		スケジュールについて	84.7%	
		係員の対応について	95.9%	
	参加者の属性	性別	男性	19.4%
			女性	75.0%
		年齢	10～30代	6.9%
			40～50代	31.9%
			60代以上	59.7%
住所		市内	58.3%	
		市外	40.3%	
会員状況		登録会員である	73.6%	
	登録会員ではない	25.0%		

※2 講座の合計割合

4. 貸館ヒアリング

●分析・評価

- ・施設全般には、良い評価が多い。
- ・設備面に関しては、利用しやすいという声が多い。
- ・利用料金は「安い」「ちょうどよい（適正である）」という声が多い。
- ・スタッフの評価は、「良い」とする意見が多い。
- ・施設の特長である専門技術スタッフの配置については、良い評価がうかがえ、市民に受け入れられていることが意見からわかる。
- ・申込み調整期間や事前打合せは、ほとんどの団体で「必要である」と回答している。
- ・施設（専門技術スタッフ）からの支援やスタッフとの交流を望む声は多い。

●調査結果からみた施設の問題点・課題について

- ・設備面では駐車場に関して改善を求める意見があった。
- ・利用時間について改善を求める声があった
- ・専門技術スタッフが常駐している特徴について、知らない団体があることや、コミュニケーションが図れていないことなどの課題も見受けられる。
- ・申込み制度、事前打合せについては、少数意見ではあるが、改善してほしいという声がある。

貸館ヒアリング回答結果（概要）

	評価項目	評価の概要 (回答項目)	団体数 (指数)
貸館ヒアリング	施設のイメージ	とても良い	9 団体
		良い	6 団体
	設備、備品等の利用のしやすさ	とても利用しやすい	4 団体
		利用しやすい	8 団体
	利用料金	ちょうど良い	11 団体
	利用時間	ちょうど良い	9 団体
	申込み調整期間について	必要である	13 団体
	職員・受付の対応について	とても良い	9 団体
		まあ良い	5 団体
	劇場の舞台技術、技術者について	とても良い	6 団体
		まあ良い	6 団体
	専属の直接担当員について	とても良い	10 団体
		まあ良い	4 団体
	事前打合せについて	必要	14 団体
	日常活動現場への人的支援について	さらに支援は必要	4 団体
支援は必要		9 団体	

※指標数値は 15 団体中の団体数

5. アーティストヒアリング

●分析・評価

- ・施設全般には、良い評価が多い。
- ・設備に関しては、利用しやすいという声が多い。
- ・スタッフの評価は、「良い」とする意見が多い。
- ・施設の特徴である専門技術（スタッフの配置含め）については、全員良い評価であった。
- ・申込み調整期間や事前打合せに関する制度は、ほとんどのアーティストが「必要である」と回答している。

●調査結果からみた施設の問題点・課題について

- ・チケット購入のシステムについて改善を求める意見があった。
- ・音楽系の公演の場合、照明が暗いとの意見があった。
- ・慣れに対する注意が必要、培ったノウハウが手抜きにならないようにしてほしいという意見があった。
- ・事前打合せについては、少数意見ではあるが、改善してほしいという声があった。

アーティストヒアリング回答結果（概要）

	評価項目	評価の概要 (回答項目)	人数 (指数)
アーティストヒアリング	施設のイメージ	とても良い	5人
	設備、備品等の利用のしやすさ	とても利用しやすい	3人
		利用しやすい	2人
	劇場の舞台技術、技術者について	とても良い	5人
	専属の直接担当員について	とても良い	5人
	ワークショップ等の担当について	同じ担当が良い	1人
		担当は変わっても良い	1人

※指標数値は5人中の人数

「可児市文化創造センター政策評価のための基礎調査報告書」

平成 18 年 3 月

発行：(財) 可児市文化芸術振興財団

〒509-0203 可児市下恵土 3433-139

Tel.0574-60-3311
